



◆新人サークルだより

＊6月18日(日) 古の六甲縦走から学ぶ
「読図実習にて文太郎尾根を辿り・・・そして
神戸登山研修所へ」

布引支部 松本 良一

「未だ現役で努めている為、時間に余裕が無い!」、「毎朝登山は不可能だが、楽しい山行きがしたい!」など、いろいろな制限や事情を抱えながらもヒヨコの仲間になった超ヒヨコの私たち新人は、そんな仲間だけで集まれる時に集まって、よちよち歩きをはじめています。よちよち歩きと言っても、やる気満々のメンバーばかりで、六甲全山縦走を軽〜く♪♪歩きたい!・・・と密かに野望を抱いているのです。

(いやいやすでに何人かは完走していますぞ!)



地形図とコンパスで読図実習を行いながら・・・

その新人たちの集まりが、6月18日(日)にありました。目的は、縦走の先人・あこがれの加藤文太郎に想いを馳せ、その先人が歩いたという文太郎尾根(元縦走路)を辿ってみたいとの思いから、兵庫の山々のスペシャリスト、我らが御大・吉野会長にご同行をお願いし、併せ



準備して下さったコンパスや資料の数々

て、地図読みやコンパスでの目的地確認など、実習を兼ねての**研修登山**を行いました。

小生、仲間への声かけを行った手前、集合場所の JR 須磨駅へは一番乗り!続いて本日歩くコースの地形図や、古の六甲縦走に関する資料などをセットにして参加者全員に配れるよう持参して下さった会長も来られ、配布の為に預る。

参加予定の15名全員が揃いいざ出発!・・・と思いきや「今の立ち位置からどの方向へ?」と早速の地図読みです!「市街地では目的地点までに多くの目印が有るが、初めての山中に入るとコンパスと地形図が命を守ってくれることとなる!」会長の一言一句に皆真剣そのもの!



文太郎尾根(古の縦走路)を辿る

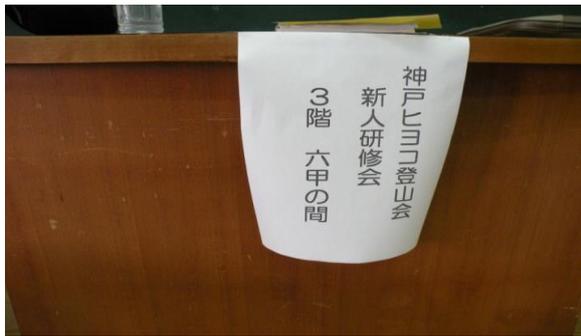
文太郎尾根への取付点へは意外とスムーズに着くことが出来た。「未だ高倉山が削られていなかった文太郎の時代は、恐らくこのルートを歩き、多井畑峠(標高186Mとあるので現在の白川線と多井畑道が交差した辺り)を抜けてこの取付点から梅尾山へ登ったのだろう。その裏付けは、研修所で説明する。」との会長の説明に、なる程と皆頷く。文太郎尾根は風化した急峻な尾根で、思ったより歩きずらかったが、400段階を



展望抜群の梅尾山にて

上る現在のルートよりは楽しく、そして又、短く感じたのは小生だけだったのだろうか・・・？
梅尾山頂から須磨駅を見ると、歩いたルートが一目瞭然！如何に最短コースを歩いて来たかがよく解り、検め地図読みの大切さを実感する。

下山は梅尾南尾根を下り、途中から天皇池側へ降りて JR 須磨海浜公園駅から乗車、研修会場の神戸登山研修所へと向かう。



神戸登山研修所にて

研修所では午前中所用で参加出来なかった5名が順次加わり、初めての方たちの紹介やご挨拶にヒヨコ登山会の伝統である絆が結ばれていく。吉野会長からは資料の中身「古からの六甲全山縦走」を紐解く興味深い説明があった。

①神戸草鞋会（後の神戸徒歩会・関西徒歩会）の誕生、②対象 14 年 11 月 29 日、初めて成されたとされる神戸徒歩会の記録、③昭和 11 年 5 月、三菱内燃機の仲間による文太郎追悼全山縦走の記録など。そして、会長達がヒヨコ登



古からの六甲全山縦走者。講義は吉野会長

山会創立 80 周年記念事業として行った「六甲全山縦走路の実測」などであった。何れもが興味あるものばかりで、先人が行った縦走についてもっと深く知りたいものだと思った。

最後に楽しみにしていた「新人サークル懇親会」は、お腹の限界（昼食時間）である午後 2 時。食べ物・飲物はスーパーにて皆で購入持参したものばかり。盛付けやテーブル準備も全員で行った。（これも山屋の実習だろうと全員納得！）



最後は大いに盛り上がった手作り懇親会！

最後は、この記事が載る前に行われているであろう 95 周年記念行事・Ⅲ「ヒヨコ発祥の地・レリーフ設置記念ハイク」時にパフォーマンスとして披露しようとしているお祝いの「歌」の練習で大いに盛り上がった 1 日となった。

皆さま、お楽しみに！・・・ではなく、皆さま歌の出来は如何でしたか？

合掌

天候 晴れ
参加者 20 名